

にこりこー帯にぎわい会議は、提言します

農産物直売所「にこりこ」一帯のリニューアル。

町民に愛され、にぎわうためには、「どのように、誰が、何を」したらいいか。

「道の駅」にすることも含めて、一帯の未来を考える「にこりこー帯にぎわい会議」は

10か月間検討を終え、委員会としての考えをまとめました。



Mission にこりこー帯がにぎわうための、「①リニューアル方針・②運営主体・③具体的な事業・④手段としての道の駅化」を検討せよ！

①リニューアル方針(コンセプト)は？

一帯は「農家の所得向上」のために作られた公共施設。一定の利用はあるけれど…ここは、誰のための、どんな場所になったらいいんだろう？

→「**町民が毎日行きたくなる**」「**箕輪の農のつくる価値を伝え、楽しめる場所**」に！
欲しいものがあって、居心地のいい、毎日行きたくなる場所が求められます。

②運営主体はどうするの？

公社と町で運営してきましたが、経営的にも運営的にも、なかなか上手く行きません。また、失敗するとお金で損をする責任者がいないことも、経営努力を生みにくい理由です。

- 責任者が必要です。
- 特定の担い手は想定されませんが、「農」が価値の中心にあり、町内農家の8割が会員のJAの協力は得た方がよいでしょう。
- また、各施設・果樹団地を連携し、一体として運営できる体制や人材が必要です。
- お金をかける前に、現状で一帯を担う、担い手を募集することも考えられます。

③コンセプトを実現するのは、どんな事業？

○名前とイメージを決めましょう

「にこりこー帯」以外の呼び名がなく、対外的に売りだせません。名前を付けるとともに、一帯が一つのまとまりをもった印象を与えるよう、開発のトータルデザインを先に決める必要があります。

○農産物直売所 にこりこ

お客様が欲しいものがあることが第一！
直売所に期待するのは「新鮮・安価・品数豊富」。商品知識豊富な店員や生産者と話せることは、スーパーにはない魅力になります。
町の農産物の旬・美味しさ・使い方を知り、欲しいものを作ってくれるお店になります！

○加工所

何があるのか、何ができるのか、分からない！
でも実は様々な食品加工設備と製造許可のあるすごい場所なんです。作りすぎた野菜を加工したり、果物をジャムにしたり。皆さんの身近な加工施設として、使ってもらいたい。
にこりこの野菜を無駄なく使い、加工品として学校給食や福祉施設などへ営業しましょう！

④道の駅は、どう考えるの？

認定されるには、要件である外用トイレや舗装、看板などに約1億円かかります。その上で、各施設の改築費用が発生します。

広告塔として、一帯を売り出していくには手っ取り早いツールですが、リニューアル後、道の駅として通常期待されるレベルに中身が伴わない場合、評判がマイナスに働き、お金をかけてお客様を失う可能性があります。

道の駅の認定によらず、まずは一帯を最低でも道の駅レベルを満たす内容にし、町民の利用が進まない限り、一帯に未来はありません。

内容が伴う前提で、道の駅という冠をつけるとすれば、リニューアルと同時にを行うのが効果的と思われます。

○農家レストラン たべりこ

町の農産物の美味しさを伝える場所であってほしい！
食べ放題はロスが多く、メニュー数の確保のために地元以外の材料を使いがち。一品メニューにして、もっと地元の材料をつかったメニューにしましょう。お昼時だけの営業時間は見直しも必要です。

○周辺の果樹団地

一年を通して野菜や果樹の収穫体験ができる、果樹団地が整いつつあります！収穫～加工など、体験カレンダーで町を楽しみましょう！

○追加して整備するモノ・コト

コンセプトを実現するために、どんなものが追加で欲しい？

その前に…中身の改善が第一！施設をよくしても中身がダメなら意味がありません！その上で…

- 看板** 何のお店か伝わりづらく、誘導看板もないことから。
町として売っていくなら、店名に「箕輪」がある方が良くいかも。
- アーケード** 施設間のお客様の対流・売り場面積拡張・休憩所・開店していることが伝わるなど、複数の課題を解決できるので。
- 日陰、花・緑地、遊具** 滞在時間を延ばし、行きたい理由を作れます。